

各対策の検討状況

	河川対策			流域対策	減災対策
	河道対策	洪水調節施設			
		既存ダム活用	新規洪水調節施設		
青野ダム・丸山ダム・千苅ダム	遊水地	新規ダム			
<p>検討状況</p> <p>< 検討状況 > 河道掘削の安全性・社会的影響に関する検討^{*)}を踏まえ、整備計画期間内に実現可能な河道対策を検討している。 *)具体的内容は<検討項目>参照</p> <p>河道掘削の安全性・社会的影響については、河川審議会治水部会の意見を聴く。</p> <p>< 検討項目 > 河床変動計算 河道掘削後の河床の安定性を1次元及び2次元河床変動計算で予測する。 水理模型実験 橋梁基礎部の局所洗掘に対する安全性を水理模型実験で確認する。 塩水遡上・地下水流動計算 河床掘削や堰・床止の撤去による塩水遡上、周辺地下水位の低下並びに地下水への塩分混入量を予測し、周辺井戸への影響を把握する。 国道橋梁の架替検討 国道2号橋梁の架替による物件移転範囲と概算事業費を把握する。 河川審議会治水部会において、上記～の検討方法の妥当性や検討結果の解釈について意見を聴く予定</p> <p>環境の2つの原則 原則1の着目すべき「重要な種」の分布、原則2の優れた「生物の生活空間」の範囲を踏まえ、河川事業計画案ごとに、事業による影響と保全・再生方策について検討中。</p>	<p>< 検討状況 > 治水容量 ・現在の運用で確保できる容量 ・予備放流により確保できる容量 ・水道事業の水需給の調整により確保できる容量 について検討・協議している。 費用負担 各ダムの治水活用に必要になる費用（施設改造、アクション、補償）と県、利水者の費用負担について検討・協議している。</p> <p>< 検討中の課題等 > 予備放流 ・丸山ダム 過去16年間の予備放流シミュレーションを行っているが、降雨予測データを用いた検証数は1件と少ないため、放流の確実性に課題がある。 ・千苅ダム 過去13年間の予備放流シミュレーションを行っているが、降雨予測データを用いた検証数は2件と少ないため、放流の確実性に課題がある。 水需給 ・各ダムの渇水時の安定供給量と実績取水量や将来需要量を比較してダムの余力を評価・検討している。 その他の課題 ・施設改造費用の負担(千苅ダム) ・放水トンネルから、貯水池中層部の良質な水が放流されることによる水質への影響(千苅ダム)など</p>	<p>県が下水道計画を進める下水道施設増設用地の一部を活用して、遊水地を整備する方針で下水道管理者と調整を進めている。 農地3箇所については、優良農地として営農されており、整備計画には位置づけない方針である。</p>	<p>武庫川峡谷環境調査 新規ダムによる環境への影響と対策を明らかにするため、「植物・植生」などの6つの分野に分けて、各調査を実施中、または調査結果のとりまとめ中。</p> <p>環境の2つの原則 原則1の着目すべき「重要な種」の分布、原則2の優れた「生物の生活空間」の範囲を踏まえ、河川事業計画案ごとに、事業による影響と保全・再生方策について検討中。</p>	<p>学校・公園について、流域内の実施設での現地調査を基にした施設概略設計と概算工事費の算出、地先効果の検討、ため池における貯留容量の確保方策などの検討を行ってきた。 現在、県市の役割分担についての協議において、 ・市の負担が大きい ・上流市の負担の不公平感 ・本来の利用を阻害する懸念が課題となっている。 これについて、県と市で協議を重ねているところである。</p>	<p>流域委員会と組織した武庫川流域減災対策検討会で、減災対策の推進方策をとりまとめた。 この中で、次の3つの具体策を提案している。 具体策1：流域市と連携したモデル地区での取組による地域防災力の強化 具体策2：水防活動に対する河川情報の提供 具体策3：流域市と連携したまちづくりへの働きかけ</p> <p>減災対策検討会は第8回をもって終了した。</p>
<p>河川整備計画のフォローアップ組織 河川整備計画の実施状況をフォローアップする組織の設置を検討中。武庫川の河川整備に関して、河川整備計画の実施の段階において「参画と協働」のもとでの整備を進める方策について併せて検討を行っている。</p>					
<p>推進のための制度整備 武庫川水系における流域対策・減災対策の推進に関し、 ・流域対策・減災対策の基本理念、県と流域市で構成する協議会の設置、協議会における流域対策・減災対策の推進計画の策定などを規定した要綱案の取りまとめ。 ・上記要綱にもとづく協議会の基本的な組織構成等の基本的な枠組について検討を行ってきた。 協議会の組織構成、構成員など協議会の設立に向け流域市と協議を行う。</p>					